

埼玉県内全域におけるイヌ・ネコに関する寄生虫保有状況（2025年）

埼玉県動物指導センター

1 はじめに

エキノコックス *Echinococcus multilocularis* をはじめとする動物由来感染症対策の観点から、県内（政令市、中核市は除く）におけるイヌおよびネコの寄生虫侵淫状況を調査したので、2025年の結果について報告する。

2 検査材料および方法

2025年1月から12月までの期間に当センターに収容されたイヌ5頭、ネコ30頭の直腸便又は排泄便を採取し、寄生虫検査を実施した。寄生虫検査は直接薄層塗抹法、ホルマリン・エーテル法（MGL法）、シヨ糖遠心浮遊法および新鮮便の直接塗抹法を併用した。

3 結果

(1) イヌについて

イヌ全体（5検体）について寄生虫検査を実施した結果、寄生虫の検出は認められず、陽性数は0頭、陽性率は0%であった。

(2) ネコについて

ネコ全体（30検体）のうち、寄生虫の陽性数は10検体、陽性率は33.3%であった。虫卵は、マンソン裂頭条虫卵が9検体（30.0%）、猫回虫卵が1検体（3.3%）、猫鉤虫卵が1検体（3.3%）、壺型吸虫卵が7検体（23.3%）、*Cystoisospora felis*が1検体（3.3%）検出された（表1）。また、ネコにおいて複数の寄生虫類に重複感染した検体は7検体あり、その内訳はマンソン裂頭条虫、壺型吸虫の2種重複感染が5検体、マンソン裂頭条虫、壺型吸虫、猫鉤虫の3種重複感染が1検体、マンソン裂頭条虫、壺型吸虫、*Cystoisospora felis*の3種重複感染が1検体であった。

表1 ネコにおける糞便検査結果

		オス (n=17)	メス (n=13)	合計 (n=30)
吸虫類	壺型吸虫	4 (23.5%)	3 (23.1%)	7 (23.3%)
条虫類	マンソン裂頭条虫	5 (29.4%)	4 (30.8%)	9 (30.0%)
線虫類	猫回虫	1 (5.9%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)
	猫鉤虫	0 (0.0%)	1 (7.7%)	1 (3.3%)
原虫類	<i>Cystoisospora felis</i>	1 (5.9%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)
陽性頭数		6 (35.3%)	4 (30.8%)	10 (33.3%)

※重複感染があるため虫卵検出数と陽性頭数の合計数は一致しない

4 まとめ

調査は、エキノкокスの本県への侵入に関する疫学調査の一環として実施している。今回の調査ではエキノкокスは検出されなかった。

犬については5頭の糞便検査を実施したが、寄生虫は検出されなかった。収容理由別では、放棄個体2頭中0頭、捕獲個体3頭中0頭であった。

猫については30検体中10検体で寄生虫が検出された。収容理由別では、飼い主が所有権放棄した猫（以下「放棄猫」という。）19頭中4頭、負傷して動けなくなった飼い主不明の猫（以下「負傷猫」という。）11頭中6頭で陽性であった。負傷猫で比較的高い陽性率がみられ、屋外環境で生活することにより寄生虫感染の機会が増える可能性が示唆された。また、放棄猫からも寄生虫が検出されたことから、屋外環境への出入りを伴う飼養形態であった可能性も考えられる。このことから、寄生虫感染予防の観点からも猫の室内飼育の推進が求められる。

エキノкокスは確認されなかったものの、様々な寄生虫類の感染が明らかとなり、ヒトに感染する動物由来感染症の原因となるものも確認された。

当センターでは寄生虫侵淫調査を継続するとともに、ホームページ掲載等により情報発信を行い、猫の室内飼育の推進を含めた適正飼養の普及啓発を図り、県民への動物由来感染症予防に努めていきたい。